

苫小牧市立清水小学校学校だより

# 清水の子



『未来を創造する  
清水の子の育成』

◇学びを広げる子  
◇思いやりあふれる子  
◇たくましさみなぎる子

第12号 令和3年2月22日発行

TEL 33-7285  
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

## 体験が思い出に



校長 堀田 稔

学校の令和2年度も残すところ、ひと月となりました。コロナ感染症が流行していると言われて1年が過ぎました。社会のいろいろな分野では、「本当に必要なもの」と「そんなに必要でなかったもの」、そんなに必要ではないのに「今までやっていたからという理由で続けていたもの」等、今の社会に、何が必要で何が必要でないのかがはっきりしてきたように感じています。

### ＝学校のデジタル化＝

学校では、児童1人1台のタブレット導入の準備が進み、次年度から使えるようになるようです。（詳しくは今後発行される学年等のおたよりをご覧ください）自分で問題を選び、自分の進度で学習を進めたり、遠隔での授業（オンライン学習）も今後可能になったりしていくのではないかと考えています。一人ひとりの子どもにとって、よいものになるように願っています。

### ＝バーチャルとフィジカル＝

『バーチャル体験』とは実際に体験しないで仮想の中で学習を進める等のこと

『フィジカル体験』リアルな体験のことで、実際の体験を伴うこと、と言われています。

日本では芸能人やマスコミの影響か『リアルな体験』と多くの人が言い、私も出川哲郎さんがよく使うリアルが一般的だと思っていました。しかし世界的には『リアルな体験』を『フィジカル体験』と言うのが一般的なようです。

### ＝今年の清水小＝

今の時代、『バーチャル体験』はいろいろな場所や場面でできますので、子ども達にこの年齢のこの時期に、体全体で感じて、考えて、得るもの『フィジカル体験』を少しでもさせたいと、今年度、学校への来校等の制限にご協力いただきながら、地域や保護者の皆様に「読み聞かせ」「心の授業」「元オリンピック選手の道徳」等々、他にも学年の発達に応じて実施させていただきました。卒業式で「小学校の思い出や、これからの決意」を語るであろう6年生に「コロナ禍の学校生活の中、思い出をたくさん作ることへの手伝いができただろうか」という気持ちもありますが、子ども達の作品に先生方からの心通うコメントや、友達からのやさしいコメントの掲載、季節に合わせた掲示の工夫等で「清水小学校での思い出」となるように、教職員も子ども達も頑張ってくれていた機会を多く目にすることができ、ありがたい気持ちでいっぱいでした。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

思い出とは「喜怒哀楽」すべての記憶であり、一人ひとりが積み上げた個人の歴史で、実際に体験したことの中から多くが生まれます。その「思い出」は「未来に役立てるためにある」と多くの人々が口をそろえて言っています。物事をすでに体験している大人と全く体験していない子どもとの違いに着目しながら、右手に『バーチャル体験』左手に『フィジカル体験』軸には『人間力を育てる教育の推進』を据えて、今後も教育活動を進めていきたいと考えています。

皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、コロナ禍で感染防止の観点から、ご迷惑をおかけすることがありますが、これからも清水小学校の教育へ、ご理解・ご支援・ご参画のほどよろしくお願いいたします。